

うしみさらダボール子育て情報

「心とからだ」
令和7年10月8日号
板橋富士見幼稚園

親子の折衷案を大切に

子どもは、成長と共に、したい、行きたい、食べたい、という欲求が高まってきます。例えば「〇〇したい」とき、親はどのような対応をするのでしょうか。否定しますか。それとも「いいよ」と言いますか。今日の話題は、子どもの欲求にどう答えるかというお話です。多分親御さんは、“状況によってですかね”と答える方が多いのではないのでしょうか。行きたい・食べたいも同じです。子どもとは、状況に関係なく自分の思いや欲求を満たそうとするものです。こんな場面は、よくあるかと思います。

正しい答えはありません。「今はダメ」と言われると、子どもは「どうしてダメなの」と心で思い、辛く悲しく、すねるのです。だからといって「いいよ」と許してしまうと、子どもは喜びを満面の笑みで返してきますが、親は子どもの思い通りになってしまうことに内心少しモヤモヤする といったように、お互いの思いが錯綜します。ここには、どうも心と心の温度差があるようですね。

子どもの喜ぶ顔見たさに大人が心を譲ってばかりいると、わがままになってしまうのでは…と心配されることもあると思います。だからと言って一方的な「ダメ」が続いたり、親の思いばかりを通していたりすると、子ども自身が言ってもダメだからと思いついて何も言わなくなったり、不機嫌になったりと、自立の妨げとなってしまいます。また、積極性が低下し、言葉数が少なくなっていく場合もあります。

したがって、こうした関係と向き合うときには、親子が互いに納得できる折衷案を見出すことが大切です。当たり前のような話ですが、日々の生活の中で、折り合いをつけることは、大切な心なのです。

そのためにも、時間をかけて、どうしてやりたいのか、今はどうしてダメなのか、親の今の立場もしっかり伝えて、互いが満足するまで語り合うことが大事なのです。つまり、お互いの「譲る」という感覚を持つ経験がとても重要です。

是非日々の生活の中で心がけてみてください。



【運動会に向けて】

ダンス・組体操・パラバルーンなど、様々な競技を通して身体を動かす楽しさを十分に味わっているところです。

